

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

11月&  
12月

# 福玉便り

ふ く た ま だ よ り

通巻 111 号

発行：『福玉便り』編集委員会 NPO 法人埼玉広域避難者支援センター・(一社) 埼玉県労働者福祉協議会

協力：生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先：NPO 法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-2 1ときわ会館 1F TEL0120-60-7722

## 福玉上映会&トーク

### 『ラジオ下神白』

—あのととき あのまちの音楽から いまここへ—

日時：11月17日(日) 14:00～(開場 13:30) 入場料：無料

14:00～14:10 イントロ

14:10～15:20 映画『ラジオ下神白』上映

15:20～15:30 休憩

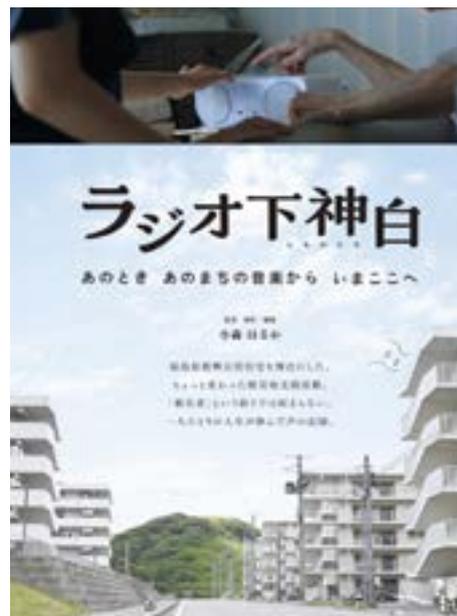
15:30～16:30 アサダワタルさん(企画・出演)による  
アフタートーク+質疑応答

#### 会場：埼玉県男女共同参画推進センター

(With You さいたま) 視聴覚室(さいたま市中央区新都心2-2)

JR 京浜東北線、高崎線・宇都宮線「さいたま新都心駅」から徒歩5分

JR 埼京線(各駅停車)「北与野駅」から徒歩6分



主催：NPO 法人埼玉広域避難者支援センター 問合せ：0120-60-7722 (フリーダイヤル・福玉相談センター)

#### ラジオ、歌声喫茶、宅録、ミュージックビデオ……次々と変化する「伴走」のかたち

いわき市にある福島県復興公営住宅・下神白団地には、2011年の東京電力福島第一原子力発電所事故によって、浪江・双葉・大熊・富岡町から避難してきた方々が暮らしている。2016年から、まちの思い出と、当時の馴染み深い曲について話を伺い、それをラジオ番組風のCDとして届けてきたプロジェクト「ラジオ下神白」。2019年には、住民さんの思い出の曲を演奏する「伴奏型支援バンド」を結成。バンドの生演奏による歌声喫茶やミュージックビデオの制作など、音楽を通じた、ちょっと変わった被災地支援活動をカメラ

が追いかけた。監督は、震災後の東北の風景と人の営みを記録し続けている映像作家の小森はるか(『息の跡』『二重のまち/交代地のうたを編む』)。本作は、文化活動家のアサダワタルを中心にした活動に、2018年から小森が記録として参加することによって生まれた。カラオケとは違い、歌い手の歌う速度にあわせて演奏する「伴奏型支援バンド」。支援とは何か?伴走(奏)するとはどういうことか?「支援する/される」と言い切ることでできない、豊かなかわりあいが丹念に写しとられている。(公式ホームページより)

福玉相談センター：電話 0120-60-7722 (フリーダイヤル)

メール：fukushima\_soudan@yahoo.co.jp

相談日：火曜日・水曜日・木曜日(9:30～16:30)

福玉相談センターの開所日は、火曜日・水曜日・木曜日の9:30～16:30です。なお、メールでの相談は随時行っております。こちらから折り返しご連絡しますので、差し支えなければ、連絡先をメールの文面に記入していただくようお願いいたします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

2023年4月から2024年3月まで、よりそいホットライン（震災後に立ち上がった電話相談事業）の若年層調査に関わり、東日本大震災・原発事故当時、子どもだった人たち20人から、じっくりお話を聞く機会をいただきました。その中で、ご本人が許可をくださった方の言葉を、いくつかご紹介したいと思います。

「友人と話をしても虚しくて、ぼーっとその思いが出てくるんです。何気ない友情が羨ましい、というコンプレックスがあったから、特別な人間になりたい、と思っていました。学校にいけなくなった理由は無力感です。いじめられていたわけではなかったんです。普通に話せて楽しいんだけど、無力感。納得するまで考えたかったから、ずっと考えていました。でも当時はこだわりがあって、考えられる範囲は限定されてしまっていて、そんなふうにはずっと過ごしていたから、第一希望の高校も落ちてしまいました」

これは、原発事故後、相双地区から西日本に避難をした、当時9

歳だった男の子の言葉です。相双地区は、多くの人が関東圏にかつ町単位で避難していることが多かった地域。西日本への避難は稀なケースでした。だからこそ、同じ境遇の人にも近くには一人もおらず、孤独感を抱えて学校に通っていたといいます。

中学生になってから、つまり原発事故の避難を経験してから数年が経つてから、その男の子は不登校を経験します。お兄ちゃんも、同じように不登校になったといいます。子どもたちは、原発事故の直後は、なんとか頑張るとか頑張っている、その心への影響は、時間をかけて出ていたケースが多いと、お話を伺って感じました。

## 子どもたちの声

いれば、一方で、深い孤独を抱え、周囲に共感してもらおうことを諦めざるを得ない苦しみを抱えている子どもも数多くいたことを、教えてもらいました。

「ふとしたときに、同級生が地元の幼馴染と話すのを見ると、『ああ、そういう友人をなくしちゃったんだなあ』と思っ、気が吸い取られちゃった感じでした。当時、母が『友人（避難元の友人）とメールしなよ』と言ってくれたけど、いや、それは、なんか違ううというか、そう

じゃない、特別なことをするのはなくて、日常生活と一緒にいたかったんだ・・・というか。そういうの（同級生が地元の幼馴染と話すの）を見るのがつらかった」

「もともと友人がいなかったのなら、諦められるけど、避難元では、たくさん友人がいたから、かけがえのないものを失ったのは、時間の経過で埋められるものではないし、今もすごく思っていることです。それが一番つらいです」

その男の子は、今では成人して自分の道を進み、少しずつ人生を作り上げ、先日お会いしたときには、「だいぶいい方向に向かっています」と話してくれました。

でも、お話を伺った最初のときには、苦しかった本音をたくさん語ってくれました。そして、その本音の「言葉」には、深く考え続け、分析してきたことが垣間見えるのです。自己分析しなければ生きていけないほど苦しんでいた、ということでもあるのだと思います。

「震災経験が強すぎて、もっと興味のあるものがなくて、好きなものより、オンラインワンに憧れていました。震災の語り部はオンラインワンだと思っただけれど、疲れた瞬間、自己犠牲だと気がつくし、誰かを愛えた感触がないんです。人は変わらないうし、変わってくれない他人が悪いという他責思考にはまってしまって、負のスパイラルに陥るんです」

「世の中一般に、（原発事故が）忘れられている時ほど一番つらいです。私たち家族は一生、つ

らい課題なのかなと思います」

原発事故から13年以上が経ち、ずっと悩み、考えて続けてきたことを、ようやく「言葉にしようかな」と思いはじめた子どもたちもいるのだと思います。子どもに限らず、きっと、大人にもいるのだと思います。でもこの男の子が語ってくれたように、語れば「疲れる」。お話を伺いながらも、苦しいのではないかと、話し終えて疲れるのではないかと、という申し訳なさを抱えています。だからこそ、話してくださった以上、伝えなくてはという思いにもなります。

福玉の読者の中にも、13年以上が経ち、いま、つらいんだ、今もまだ、つらさが続いているんだ、という人もいるかもしれない。そんなときに、「この人なら話してもいいかな」と思える誰かがいることを、あるいは似た経験をした人に話せる環境があることを願っています。（不定期になるかもしれませんが、私が伺った子どもたちの言葉は、許可をいただきながら、少しずつお伝えしていきたいと思えます）

（編集部・吉田）

# 原発事故で出た放射性廃棄物を これからどう考えたらいいのか

▼ALPS処理水の海洋放出

現在、ALPS処理水の海洋放出の第9回目が行われています。ご存知と思いますが、「処理水」と言われているものの、残念ながら、原発事故による放射性物質の汚染がすべて取り除けた水ではありません。「処理水ポータルサイト」にも書かれているように、「海水希釈後のトリチウム濃度が1500ベクレル〜リットル未満となるよう、100倍以上の海水で十分に希釈する。なお、年間トリチウム放出量は22兆ベクレルを下回る水準とする」という、「基準を下回った水」です。トリチウム以外の放射性核種も、希釈されるとはいえ、含まれていることも事実です。

2024年7月時点で、これまで海に流した「総量」として、ストロンチウム90が約2200万ベクレル、ヨウ素129が約9600万ベクレル、セシウム137が約2200万ベクレルであると算出されています（国際環境NGO FOE Japanの満田夏花氏の講演資料より）。そして、それはこれから増えていきます。

今年3月、「ALPS処理汚染水差止裁判」が提起され、その第3

回期日が10月1日、福島地方裁判所で開かれました（写真）。傍聴席42人の枠に約2倍となる81人が並びました。



この裁判は、福島県内外の住民や漁業者ら350人以上が国と東京電力に対し、福島県漁連と結んだ「関係者の理解なしにいかなる処分も行わない」という約束を反故にし、住民が平穏に生活する権利を侵害しているなどとして、国の原子力規制委員会による放出計画の認可取り消しと放出の差止めを求めています。

一方、被告東電は、海洋放出は将来にわたり健康や漁業活動に影響を及ぼす危険はなく、原告の権利侵害はないと主張しています。国も、海洋放出による原告らの権利侵害は存在せず、原告適格者（原告になれる人）は存在しないため、

却下されるべきだと訴えています。

この日の裁判では、原告の丹治杉江さん（いわき市）と長岡裕子さん（いわき市）が陳述しました。丹治さんは、「事故以来13年、低線量長期被ばくの不安を抱え、生活

場面でさまざまな工夫・努力を行い放射性物質と折り合いをつけながら暮らす私たちに、今度は処理汚染水の海洋投棄という加害の故意による『二重の加害』、追加の被ばく行為を押し付けてきた。許されるはずがない」と訴えました。また、長岡裕子さんは、いわき市で生まれ育ち、現在はいわき市の菓子職人として暮らしている思いを語りました。

高校まで競泳の選手だった長岡さんは、海水浴が好きで、いわき市の海岸だけでなく、友人たちと全国各地で海水浴に出掛けていたといいます。また、海辺の散歩も好きで、自転車、自動車、徒歩で週に1度は海を見に出かけるほどでした。釣りも好きで、兄の釣つた小アジは食卓にのぼり、母はやナギガレイの一夜干しを自作するのが好きだったそうです。

海と関わる暮らしは「私のアイデンティティ」という長岡さんは、原発事故によって海のレジャーは一時期全く行かなくなってしまったこと、ALPS処理汚染水の海洋投棄後は、しばしば気持ちが悪くなるようになったことを語りました。

しかし「こうした重苦しい気持ちや戸惑いを、正確に表す言葉が探せていません」とも訴えています。長岡さんのお店で作るお菓子里に使用していた、いわき沖の海水で作る塩は、製造行が原発事故後に塩の製造をやめてしまいました。看板商品の復活も見込めなくなつたのです。

淡々と陳述していた長岡さんは、涙で声を詰まらせた場面があり、心に残りました。

「こうした原発の問題から目を背けていた過去の自分を思い出し、その度私は、申し訳なきで一層苦しくなります。日々の生活では、海洋投棄について話をすると『風評加害者』などとやり玉にあげられることもあり、日常の不安や批判を口にできない雰囲気醸成もみられています」と述べた時でした。

裁判後、報告集会（写真）では、織田千代さん（いわき市）が、「今日の裁判では魚の種類がたくさん



出てきた。メバル、かき、カレイ……魚の名前が並ぶたびに、泣きたくなつた。海のものが大好きで、私たちが失ったものの、私たちが受けている被害だな、と思った」と訴えました。また、代理人の一人、鈴木雅貴弁護士（福島市）は、「福島原発事故の賠償を求める裁判にも代理人として参加しているが、このALPS処理汚染水差止裁判は、国も東電も全力で、攻撃性が高いような感じがしている。国の政策には一歩たりとも踏み入れさせない、という意思を感じる」と語っています。

次回期日は1月21日（火）14時15分から。今後の国・東電の主張が気になります。

ALPS処理水の問題は、さまざまな意見があり、だからこそ「本音が言えない」という大きな問題がまず、あります。裁判で長岡さんも語っておられましたが、原発事故には、この「語りにくさ」の問題がいつも付きまといまふ。皆さんはどんなふうに考えますか。

私は個人的には、次世代にどうしたら事故の被害・負担を減らせるか、ということを中心に、考えたと思っています。そして、原発事故はいまだ解決していないうえに、さらなる問題も生み続けていることを、改めて痛感しています。

（編集部・吉田）

## 各地の 交流会など

新型コロナウイルスの感染拡大により、交流会の流動的な状況が続いておりました。昨年5月には感染法上の分類が「5類」に引き下げとなりましたが、各交流会の感染対策については連絡先にお問い合わせください。なお、各交流会に参加される方は、引き続き体温測定の上でご参加いただき、参加中は消毒や換気にご協力ください。

①	加須市	双葉町民によるボランティアカフェ	090-5356-8778 (鶴沼さん)
③	加須市	双葉町手芸教室	080-5532-7380 (薄井さん)
⑤	加須市	すくすくのあそびひろば	090-2411-8598 (戸恒さん)
⑥	加須市	オバトン	090-6526-8560 (藤井さん)
⑧	上尾市	東日本大震災に咲く会ひまわり	080-3091-6215 (橘さん)
⑩	熊谷市	くまがや結の会	090-7661-9236(林崎さん)
⑬	越谷市	あゆみの会	090-9425-2001 (石上さん)
⑱	川口市	ひまわりの会	080-5431-0123 (島田さん)
⑲	さいたま市	さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com
⑳	新座市	新座つながりカフェ	090-2402-9155 (谷森さん)
㉗	ふじみ野市	おあがんんしょ交流会	090-5345-8408 (松館さん)
㉘	川越市	ここカフェ@川越	070-5080-4494 (鈴木さん)
㉚	さいたま市	玉兎の会	090-6128-1948 (小林さん) <a href="https://gyokutonokai.wixsite.com/2018">https://gyokutonokai.wixsite.com/2018</a>

### ⑲さいがい・つながりカフェ

11/14(木)、11/28(木)、12/12(木)  
11:00～15:00  
WithYou さいたま和室  
080-5532-7380  
tunagari.saitama@gmail.com

### ㉘ここカフェ@川越

皆様の都合をお聞きして交流会を開催します。場所は JUN ホール、10:00～15:00  
pororon311@gmail.com、070-5080-4494 (鈴木さん)

### ③双葉町手芸教室

11/20(水)、12/18(水)  
10:00～12:00  
双葉町社会福祉協議会加須事務所  
080-5532-7380 (薄井さん)

### ⑥オバトン

11/12(火)、11/28(木)、  
12/10(火)、12/26(木)  
10:00～15:00  
キャッスルきさい2階調理室  
(ぬり絵教室は2階研修室で11:00～13:00。ハーモニカ演奏・合唱は木曜のみ1階多目的ホール(12月から音楽室)で10:00～12:00)  
090-6526-8560 (藤井さん)

### ⑬あゆみの会

11/22(金)～23(土) 日本大震災を  
忘れない!! 浜通りツアー十日市交流会  
090-9425-2001 (石上さん)  
<http://k-ayuminokai.info/>

### ㉚玉兎の会

予約は要りません! お気軽にご参加ください。048-854-8703 (小林さん)  
<https://gyokutonokai.wixsite.com/2018>

## 日帰りバスツアー in 那須 のお知らせ



東日本大震災から、13年。それぞれが違う体験・経験をして過ごしています。被災地、猪苗代町で、当時行われた国際文化交流舞踊団「曼珠沙華」の舞踊! 私は、3ヶ月の子供を連れ、埼玉から行きました。すーっと、涙が出た。「ほんの一瞬でもいい、今、苦しんでいる心を忘れさせてあげたい・・・」と魂の舞台。10年過ぎた今、またみんなで見たい! 前座には、いわき市で体操教室を開催している大叔母(81歳)が、皆に元気を! 与えます。

日時：2024年12月15日

代金：チケット代込み、1名様10,000円

行程：9:00 草加市獨協大学前駅(東口) 出発

12:00 那須町文化センター到着

12:30～14:30 国際文化交流団 曼珠沙華観賞

15:00 那須アウトレットお買い物

18:30 草加市獨協大学前駅(東口) 到着

問い合わせ先：大浦陽子(090-7666-5817)